

---

# 少年のハト

いちこ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

少年のハト

### 【Nコード】

N8913L

### 【作者名】

いちこ

### 【あらすじ】

ある日、少年はおじいさんの帽子を取ってあげた。初めて人から「ありがとう」をもらった彼は。ハトは幸せを運ぶ鳥です。

(前書き)

幸せを運ぶ

どこへ行くのだろう、そう思いながら後を追う。前方を歩く一人の老人。その後姿は、どこか明るく元気に感じた。

彼を初めて見かけたのは、もう大分前のことになる。

天気の良い昼下がり。ぼくは町中を探検していた。色々な所を回っていると、やがて、広い通りに出てた。

ふと、視界に人影が写る。それは眼鏡をかけた、七十歳くらいのおじいさんだった。体の調子が悪いのか、その場にずっと立ち止まっている。

ぼくは少し心配になり、恐る恐るそのおじいさんの元へ駆け寄った。彼は僕になど全く目もくれず、じっと沿道に植えられた一本の木を見つめている。ぼくはその木の枝に、一つの帽子が引っ掛かっていることに気が付いた。

なるほど、彼はこの帽子が取れなくて困っていたのだ。今日は確かに天気が良いけれど、時折強い風が吹いていた。この帽子は、大方突風にでも飛ばされたのだろう。

ぼくは彼の代わりに帽子を取ってあげることにした。その木の高さがいくらあっても、ぼくにはあまり関係ない。そこから帽子を取ることは、とても簡単なことだった。

ぼくは帽子を彼の所まで届け、彼はそれを両手で受け取った。そして、すぐさま立ち去ろうとしたぼくに、彼は呼び止めて言った。

「ありがとう。まさか取って貰えるとは思わなかったよ」

彼は少し驚いたようで、それでも優しく微笑んでいた。ぼくは今まで、人にお礼なんてものを言われたことがなかった。なんだかと

ても妙な気分になり、と同時に少し恥ずかしくなつて、ぼくは思わず逃げ出してしまった。後ろの方で彼が何か言っているのが聞こえたが、ぼくは後ろを振り向かなかつたし、彼も追いかけては来なかった。結局、それだけだった。

彼の後を追いかけて、たどり着いたのは町の広場だった。彼は石の段差に腰掛け、広場に居るハトを観察しているようだ。ぼくはそのたくさんのハトに紛れ、こっそりと彼に近付いていく。すると、彼がこちらに気付いたようで、ぼくの顔を覗くように話し掛けてきた。

「君とは、どこかで会つたかな？見覚えのある顔だ」

「ええ、一度だけ。あなたはもう忘れているでしょうが。」

「ふむ。鳥だつて、一羽一羽違う顔をしているものだな」

「そりゃあそうでしょうとも、生きていますから。」

「ところで、君は知っているかい？ハトはね、幸せを運んでくると言われているんだよ。ただの迷信かと思っていたが、あながち嘘とも言えないらしい」

「幸せ？そんな大それたもの・・・」

「この間、木に引っ掛かった帽子を取ってくれた子がいたんだ。私は、鳥―ハトにも心があるのだと感動したよ」

彼はその時のことを思い出しているのか、瞳を閉じて微笑んでいた。その言葉を聞いたぼくは、びっくりして声も出せなかった。

「彼は、ぼくのことを憶えて覚えていたのだ！」

目元に、その顔じゅうの皺をいっばいに集めたように笑って、彼はぼくに言う。

「さて。きつと君も、その子のように誰かに幸せを運ぶのだろうね」と。ぼくはやや躊躇って、返事の代わりにポップーと鳴いた。ありがとうの代わりに何度も鳴いた。

広場には、変わらず一人の老人とたくさんのハトだけが居た。

（後書き）

題名：少年のハト

ひっくり返してハトの少年。

つまりは、そういうことです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8913/>

---

少年のハト

2011年10月6日21時38分発行